

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-182052

(43)Date of publication of application : 06.07.1999

(51)Int.Cl.

E04G 21/32

(21)Application number : 09-355913

(71)Applicant : FUJIKI FUMIO
HARADA NAOHIKO
HARADA YUKIO

(22)Date of filing : 24.12.1997

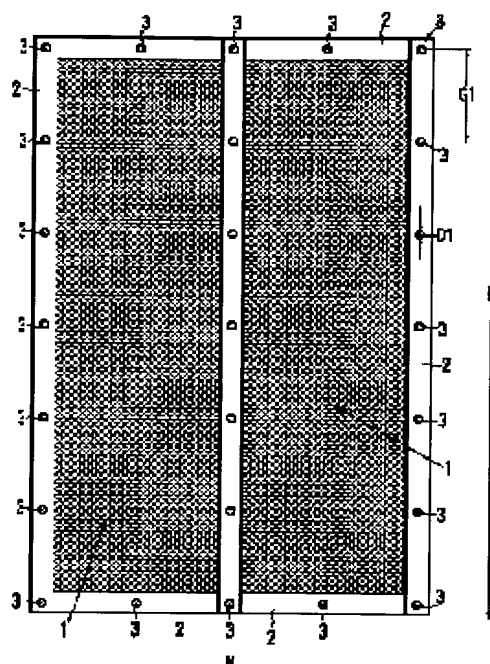
(72)Inventor : FUJIKI FUMIO
HARADA NAOHIKO
HARADA YUKIO

(54) MESH SHEET FOR BUILDING

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To restrain dioxin to make to infinitesimal in close proximity to zero when the mesh sheer is incinerated by constituting the mesh part and the seam allowance in the surroundings thereof with only vegetable fiber.

SOLUTION: An architectural mesh sheet is formed of a mesh part 1 and a seam allowance 2 of the surroundings thereof. And the mesh part 1 and the seam allowance 2 are made of only vegetable fiber. To put it concretely, the vegetable fiber forming the mesh part 1 and the seam allowance 2 is made of hemp or cotton. When this sheet is incinerated, dioxin is hardly generated to restrain it to be an infinitesimal. Since the mesh part 1 and the seam allowance 2 are formed of vegetable fiber, when the sheet is embedded in the ground, it is completely decomposed by bacterial in the ground. The mesh part 1 is made rectangular and combination of the full length L including the seam allowance 2 and the width W is selected. In this way, a novel architectural mesh sheet can be provided.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 09.04.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 31.05.2000

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2000-09867

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 30.06.2000

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-182052

(43) 公開日 平成11年(1999) 7 月 6 日

(51) Int.Cl.⁶

E 0 4 G 21/32

識別記号

F I

E 0 4 G 21/32

B

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-355913

(22) 出願日 平成 9 年 (1997) 12 月 24 日

(71) 出願人 594156329

藤木 文雄

埼玉県吉川市高富 1-20-2

(71) 出願人 594156330

原田 尚彦

埼玉県三郷市彦成 2 丁目 9 番地 9

(71) 出願人 594156341

原田 幸男

埼玉県吉川市中曽根 1-7-4

(72) 発明者 藤木 文雄

埼玉県吉川市高富 1-20-2

(74) 代理人 弁理士 阿部 美次郎

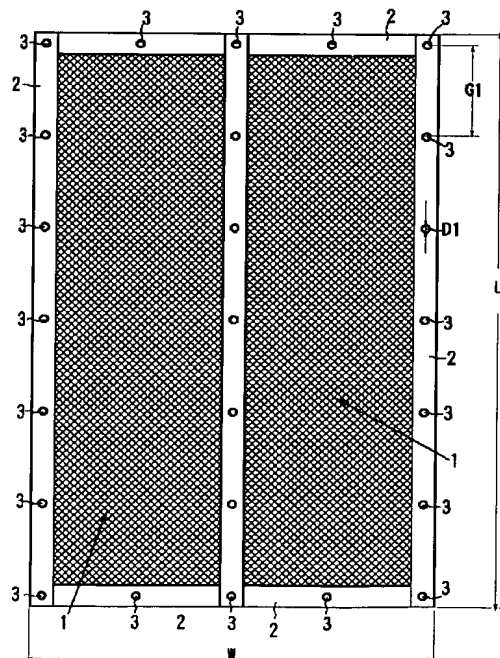
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建築用メッシュシート

(57) 【要約】

【課題】 廃棄処理に当たり、焼却した場合、ダイオキシンの発生を人間の健康に影響を与えることのない極微量に抑えることができ、また、地中に埋めた場合、地中バクテリアにより確実に分解され得る建築用メッシュシートを提供する。

【解決手段】 建築用メッシュシートのメッシュ部 1 及び縫代部 2 が、麻または綿等の植物繊維のみでなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 メッシュ部及びその周囲の縫代部が植物繊維のみでなる建築用メッシュシート。

【請求項2】 請求項1に記載された建築用メッシュシートであって、前記植物繊維は、麻または綿の何れかでなる建築用メッシュシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、建築用メッシュシートに関する。本発明に係る建築用メッシュシートには、低層住宅用メッシュシート及び建築工事用メッシュシートが含まれる。

【0002】本発明において、低層住宅用メッシュシートとは、主として、低層住宅等建築工事現場における足場等の仮設構造物の外側構面に設けられるものであって、人間、ゴミ、埃または工事もしくは建築用小部材等が、作業側から足場等の構面を越えて落下し、または、飛散するのを防止するために用いられるものいい、飛散防止用ネットまたは落下防止用ネット等が含まれる。低層住宅とは、軒の高さ10m未満の木造及び軽量鉄骨等の住宅に供する建築物をいう。

【0003】本発明において、建築工事用メッシュシートとは、建築工事に用いられるメッシュシートであって、低層住宅用メッシュシートを除いたものをいう。代表的には、JIS A 8952に規定する建築工事用メッシュシートである。

【0004】

【従来の技術】従来の建築工事用メッシュシートは、JIS A 8952に規定されているように、有機質繊維の織物を主材として造った防災性のメッシュ部（網目部）を有する。メッシュ部の各辺の縁部は縫代となっており、この縫代にハトメが間隔を隔てて設けられている。ハトメは、当該建築工事用メッシュシートを足場に取り付ける際に、縛り線を通す穴として用いられる。

【0005】JIS A 8952は、更に、シートだけで落下物による危害防止に使用されるもの（1類）と、シートと金網を併用し、落下物による危害防止に使用される（2類）の2種類の建築工事用メッシュシートを定義している。

【0006】上述した建築工事用メッシュシートを構成するに当たり、従来は、メッシュ部分及び縫代部を、ポリプロピレン、ポリエチレン等の合成繊維を用いていた。このような建築工事用メッシュシートは、例えば2～3回の繰返し使用により、強度が低下したときは、廃棄される使い捨て製品の側面を持つ。

【0007】ところが、建築工事で消費されるシートの反数（枚数）は膨大であり、強度低下により使用に耐えられなくなった大量のシートの廃棄処理をどうするかは、きわめて深刻な問題となっている。

【0008】即ち、建築工事用メッシュシートの大部分を構成するメッシュ部及び縫代は、ポリプロピレンまたはポリエチレン等の合成繊維を用いた石油化学製品であり、たとえ地中に埋めても、分解されることがなく、長期にわたって残存する。仮に、地中に埋めた場合には、不法な廃棄行為として、法に触れることになってしまう。

【0009】もう一つの処理方法として、焼却処分がある。しかしながら、その大部分がポリプロピレンやポリエチレン等の合成繊維でなる建築工事用メッシュシートを焼却処分した場合は、ダイオキシンが発生し、更に深刻な環境破壊及び衛生公害を招く。ダイオキシンは、人類が遭遇した最強の毒性成分であって、きわめて強い発ガン性を持つ。また、ベトナム戦争における枯葉剤使用の影響が示すように、人類及び動植物に対し、遺伝子レベルにおいてさえ、甚大な損傷または悪影響を与える。ダイオキシンの発生、生成を阻止することは、今や、全世界を通して、共通の課題となっている。このような事情を勘案すれば、使用済の建築工事用メッシュシートを焼却処分に付すること等、到底許されるものでない。

【0010】低層住宅用メッシュシートにおいても、事情は、建築工事用メッシュシートと同じである。

【0011】

【発明が解決しようとする課題】本発明の課題は、廃棄処理に当たり、焼却した場合、ダイオキシンの発生を、殆どゼロの極微量に抑え得る新規な建築用メッシュシートを提供することである。

【0012】本発明の更にもう一つの課題は、廃棄処理に当たり、地中に埋めた場合、地中バクテリア等により、確実に分解され得る建築用メッシュシートを提供することである。

【0013】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するため、本発明に係る建築用メッシュシートは、メッシュ部及びその周りの縫代部が植物繊維のみでなる。

【0014】かかる構成の建築用メッシュシートは、使用後の廃棄処理に当たり、焼却した場合、ダイオキシンの発生を、殆どゼロの極微量に抑えることができる。

【0015】また、メッシュ部及びその周りの縫代部が植物繊維のみでなるので、廃棄処理に当たり、地中に埋めた場合、植物繊維でなるメッシュ部及びその周りの縫代部が、地中バクテリア等により確実に分解される。

【0016】本発明の他の目的、構成及び利点については、実施例である添付図面を参照し、更に詳しく説明する。

【0017】

【発明の実施の形態】図1は本発明に係る建築用メッシュシートの正面図、図2はメッシュ部1及び縫代部2の拡大図である。この建築用メッシュシートには、JIS A 8952において規定するような建築工事用メッシュシート

及び低層住宅用メッシュシートが含まれる。図示された建築用メッシュシートは、メッシュ部1及びその周りの縫代部（縫込みテープ）2を有する。メッシュ部1及び縫代部2は、植物繊維のみ、即ち、植物繊維100%である。メッシュ部1及び縫代部2を構成する植物繊維は、具体的には、麻または綿の繊維である。

【0018】かかる構成の建築用メッシュシートは、焼却した場合、ダイオキシンの発生を、殆どゼロの極微量に抑えることができる。従って、焼却処理に付することができる。

【0019】また、メッシュ部1及び縫代部2が植物繊維のみでなるので、廃棄処理に当たり、地中に埋めた場合、植物繊維でなるメッシュ部1及び縫代部2が、地中バクテリア等により、確実に分解される。

【0020】メッシュ部1は長方形状であり、縫代2を含めた全長L(mm)及び幅W(mm)の組み合わせ（L：W）は、

L：W＝1800(mm)：3600(mm)

L：W＝1800(mm)：5400(mm)

L：W＝3600(mm)：5400(mm)

L：W＝1800(mm)：3400(mm)

L：W＝1800(mm)：5100(mm)

のように選定する。

【0021】図1に図示された建築用メッシュシートは、幅方向の中間部に、縫代2を持っているが、このような中間縫代2を持たない構造であってもよいことは、いうまでもない。

【0022】建築工事用メッシュシートとして用いる場合は、当該シートだけで落下物による危害を防止（JIS A 8952に規定する1類）する構成としてもよいし、シートと金網を併用して、落下物による危害を防止（JIS A 8952に規定する2類）する構成としてもよい。また、メッシュ部1及び縫代部2の網目寸法a、b（図2参照）は12mm以下に設定する。更に、JIS A 8952の表1に規*

* 定するようなシート性能を有するものとする。麻または綿の繊維を用いてメッシュ部1及び縫代部2を構成すると、そのようなシート性能を十分に満たすことができる。

【0023】縫代2には、ハトメ3が間隔G1を隔てて設けられている。縫代2はメッシュ部1から連続して織られた植物繊維による織布によって構成することができる。織布を折り返して、縫代2の強度及び厚みを確保してもよい。

10 【0024】ハトメ3は内径D1が8mm以上で、配置間隔G1は450mm以下に設定する。ハトメ3は、当該建築工事用メッシュシートを足場に取り付ける際に、縛り線を通す穴として用いられる。

【0025】低層住宅用メッシュシートとして用いる場合も、上述した建築工事用メッシュシートに準じた構成とする。

【0026】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、次のような効果が得られる。

20 （a）廃棄処理に当たり、焼却した場合、ダイオキシンの発生を、殆どゼロの極微量に抑え得る新規な建築用メッシュシートを提供することができる。

（b）廃棄処理に当たり、地中に埋めた場合、地中バクテリアにより確実に分解し得る建築用メッシュシートを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

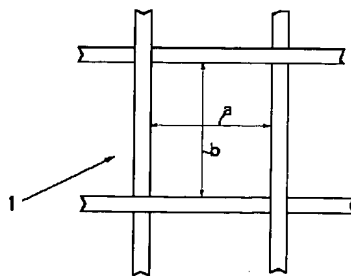
【図1】本発明に係る建築用メッシュシートの正面図である。

30 【図2】本発明に係る建築用メッシュシートのメッシュ部の拡大図である。

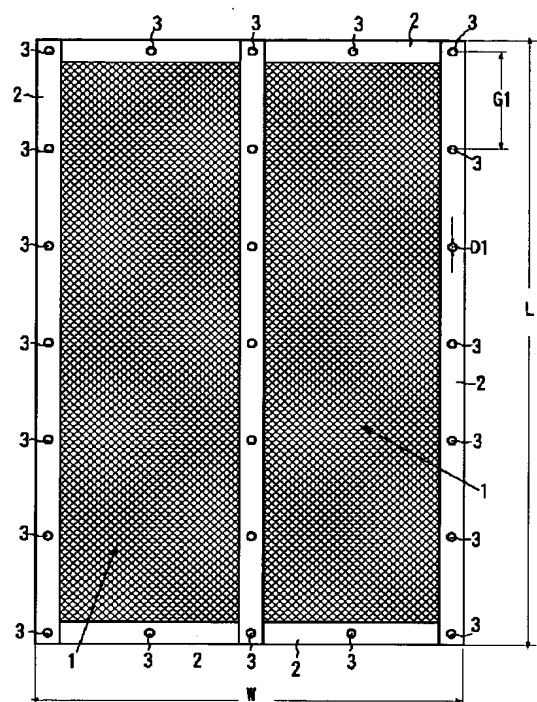
【符号の説明】

1	メッシュ部
2	縫代
3	ハトメ

【図2】



【図1】



フロントページの続き

(72)発明者 原田 尚彦
埼玉県三郷市彦成2丁目9番地9

(72)発明者 原田 幸男
埼玉県吉川市中曽根1-7-4